

研修医 2 年 長谷川 貴久

2021 年 6 月の 1 か月間、そよかぜ診療所・はるかぜ診療所で地域研修をさせていただきました長谷川貴久です。そよかぜ診療所は私たちが普段研修している神戸大学医学部附属病院から北西 2 時間程度に位置し、冬には雪が積もり、夏にはホタルの見られる、四方を山に囲まれた周囲に田畑の多い自然にあふれた場所にあります。実物のコウノトリが飛び立つ姿を見るといってなかなかできない体験もできます。見上げれば竹田城跡、北に 1 時間半ほど歩を進めれば城崎温泉、南に 1 時間歩を進めれば姫路城と周囲に名所も多い土地柄です。私は 6 月という夏に向かおうという梅雨ながらもまだ気候の穏やかな時期に研修させていただきました。

研修は午前診・午後診の間は検査室でエコー検査・レントゲン検査・採血検査などの各種検査を経験させていただいた他、外来診察見学や予診にも携わらせていただきました。合間合間で勉強になる症例や画像を教えていただいたことも大変ためになりました。午前診と午後診の間の訪問診療や、往診では、実際に患者様のお宅や施設に伺い診察をさせていただきました。訪問診療・往診をする中で地域研修を痛感したのは、症状に対する検査や診察を今手元にある装備のみで完結させなければいけないという点でした。大学病院で当然のように出していた原因菌検索のための培養は当然のこととして、診療所にはあるレントゲンやエコーなどといった機械は訪問した先にはなく、聴診器やペンライト、バイタルや問診のみで判断を下さねばならないというある種原点に立ち返ったような、基礎にして王道の医療行為を再認識させられました。高次医療機関での研修のみではこの認識のずれを実感することは難しかったように思え、この初期研修のうちにこの感覚のずれを確認できたことはとても有意後であったように感じます。もちろん専門的なことだけではなく、地域医療では患者様一人一人の生活環境や人生観、どういった介入が望ましいかは各々違って、その人の生活に寄り添う形の医療をより濃く提供しているということも痛感しました。

私は今後内科医として進路を進める予定です。今後数年は高次医療機関での研修・勤務が続くことが予想されます。今回の地域実習で実感した、退院した後の生活や通院についても考えその人に最善の方針を立てていける医師として働いていければと思います。

最期になりましたが、秀樹先生・静子先生・黒瀬先生、看護師の皆様方、事務室の皆様方、岡本家の皆様、1 か月間ありがとうございました。診療所にかかわるすべての人に支えていただき勉強させていただいた 1 か月間でした。感謝の言葉で締めくくらせていただきたいと思います。